

84. ^{67}Ga -citrate による腹部悪性リンパ腫の診断について

東京大学 放射線科

林 三進 宮前 達也 西川 潤一

^{67}Ga -citrate による腹部シンチグラムでは、肝、骨等への取り込み、腸管への排出などがあるために、腹部悪性リンパ腫の造影は困難であると考えられているが、われわれは24例の悪性リンパ腫について、リンパ造影と ^{67}Ga -citrate によるシンチグラムを対比し、その診断的価値についての検討を行なった。

リンパ造影から異常なリンパ節が認められ、その異常群の範囲が広く、また腰椎等の骨に重ならず、 ^{67}Ga スキャンで陽性像が予想されたものは7例あったが、3例に陽性像が得られた。リンパ造影で異常リンパ節が認められたがその異常の範囲が小さい17例では、6例に陽像が認められた。このうち4例はリンパ造影では造影されない領域に陽性像が認められた。

リンパ節が異常であっても、それほど大きくない場合や、異常群の範囲が小さい場合には ^{67}Ga スキャンは不利であるが、異常群が適当な範囲であれば陽性像が得られることがあるので、スクリーニングとして腹部スキャンを試みる価値はあると考えられる。リンパ造影では造影されない上腹部や、腹腔内への浸潤に対しては ^{67}Ga スキャンは有用であり、進行した悪性リンパ腫では有力な検索手段である。

85. ^{67}Ga -citrate による頭頸部腫瘍 Scanning および Ga の腫瘍への取り込みに関する基礎的研究

日本医科大学 放射線科

渡部 英之 山岸 嘉彦

〔臨床経験〕 ^{67}Ga -citrate による腫瘍スキャンは今日、広く利用され、また、その評価もなされて来た。生理的取り込みの多い部分において、異常取り込み像を把握することが難しいことはいうまでもないが、その要素の多い頭頸部におけるスキャンの評価はさらに困難をきわめる。頭頸部正常シンチグラム、並びにわれわれの施設における頭頸部腫瘍スキャンの実態、およびその評価については第11回日本核医学会総会にて報告したが、その後の症例を加えて、ここに報告する。

結果：(5月末日現在)	例数	+	+	±	-
舌 癌 (扁平上皮癌)	3	0	1	1	1
咽頭癌 (")	8	1	4	1	2
喉頭癌 (")	4	0	2	0	2
上顎癌 (")	2	0	2	0	0
耳管癌 (")	2	0	1	1	0
上顎肉腫	2	1	0	1	0
扁桃腺腫瘍 (リンパ肉腫)	2	1	1	0	0
悪性リンパ腫					
(頸部リンパ腺)	7	3	2	1	1
頸部リンパ腺転移	9	2	2	3	2
頭蓋骨転移 (乳癌)	1	0	0	0	1
耳下腺混合腫瘍	1	0	0	0	1
顎下腺腫瘍 (腺癌)	1	0	0	0	1
" (巨大浮腫性リンパ腫)	1	0	1	0	0
後頭部腫瘍 (肉腫)	1	0	1	0	0
眼窩腫瘍 (脂肪腫)	1	0	0	0	1
" (細網肉腫)	1	0	0	1	0
嚢胞性結節性甲状腺腫	1	0	0	0	1
計	47	8	17	9	13

〔基礎的研究〕1. 正常実験動物 (Rabbit, Rat) を用いて頭頸部のスキャンおよび組織学的 (形態学的) に検討中である。担癌動物 (Rat) を用いて腫瘍、および肝臓への取り込みの関係を電子顕微鏡にて形態学的に検討中である。なお炎症動物 (Rat) についても同様検討中である。